

おお大勝利

平成 27 年度山東サッカー一部報第 5 号 (5 月 27 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y1城北戦 貴重な勝ち点3得る

5 月 23 日 (土) Y1 第 6 節山形城北戦が白鷹町東陽の里 G (人工芝 以下東陽) で行われました。山東のここまでの合計勝ち点は 3。つまり 4 月 18 日第 2 節東海大山形戦で得た点しか勝ちとれていないということ。**2 回総当たりの県リーグの試合のうち、3 年生のいる前期のうち出来る限り勝ち点を稼いでおきたい山東としては、かなり苦しい状況**。対して、今節の対戦相手山形城北の合計勝ち点も 3。合計勝ち点 1 の鶴岡東が 8 チーム中 8 位で両チームの下にいるが、**この試合も熾烈な下位争い**を意味する。暫定的ながら、勝った方が 6 位ということ¹。山形城北は昨年 3 年生主体の「完成学年」を迎え、全国大会に出場してもおかしくない力を誇った。その主力がごっそり抜けたため、今年は苦しい状況が続いている。ただ、監督の K 俊先生は「W 邊再生工場」と一部の指導者の間で評判のように、中学まで思うように活躍できなかった選手も育て上げ立派なチームを作ること
で有名。高校での戦績を中学までのネームバリューの合計値で割って出されるコストパフォーマンス (CP) がかなり高いチームとも言える。もちろん推薦等で選手を獲得できない山東も、CP で負けたら話ならない。ともかく、残留に向けお互いに重要な一戦。

会場は東陽。風はやや強めだが、試合の性格を決定づけるほどではない。天気良好。というか、暑すぎるくらい。前後半 45 分のそれぞれの中間の時間に、飲水/給水タイムを取ってもおかしくない暑さ (主審の判断による その日は取らず)。いつも通り、清野 OB 会名誉会長 (総監督)、後藤報道局長がいらっしゃる。応援の保護者の方も、相手チームの 3 倍くらいいらっしゃっている。日傘の多さから、お母さん方が多いか。**菅間校長先生も地元での試合に応援に駆け付けて下さった**。さあ、あとは選手が頑張るだけ。**そしてこの試合、春の関東遠征で膝の靭帯を損傷し戦列から離れていたムンタリが満を持して復帰**。いきなり 90 分は無理だろうが、故障しない程度に頑張ってもらいたい。

試合が始まると、山東優勢。この試合に向けて、というか県総体用に、SB を MF の選手からコンバートしたのだが、その SB と CB そしてボランチがトレーニング通り、低い位置から丁寧にビルドアップしている。これまであまり山東の戦いで見られなかった状況。

¹ 原則 8 チームで構成される山形県リーグ (Y リーグ) は、1 部 (Y1) 2 部 (Y2) は下位 2 チームが自動降格となります。上位のプリンスリーグから Y1 へ降格チームがあった場合は、Y1 の 6 位も自動降格となります (それによって Y2 からの自動昇格を保証しています)。逆に、Y1 への降格がなくプリンスへの昇格があった場合は、Y1 の 7 位でも残留します (Y2 からの昇格はどんな場合でも 2 枠ということ)。ということで、いろいろなパターンはありますが、基本的に降格は 7 位 8 位ということで、6 位争いが下の方の熱い戦いとなっております。

対して城北、受け身になっているか、山東のビルドアップを許してくれる。もちろん、長いボールを使いながらダイレクトにゴールを目指すのは悪くはないし、それができるのなら躊躇なくそうすべきだが、闇雲に蹴るだけでは芸がない。これまでの山東はあまりにも「とりあえず放り込む」サッカーになっていた。要は、パスならいいが単なるキックはダメということ。密集地帯を避けサイドを変えながら薄いところにボールを運ぶ丁寧な戦いもできなければいけない。遅まきながら、そういうことに取り組んだ成果がピッチで現れる前半。そしてやはり、前線で存在感を見せるのがムンタリ。ゴールに直線的に迫れなくとも、味方の上がりやを可能にするタメを作ってくれている。とはいえ、山東の攻撃も決定打を欠く。何となく優勢だが、決定的シュートを打てているわけではなく、その一歩前でアイデアを欠くことが多い。特に前半は、サイドを崩しておきながらセンターリングが遅れ、チャンスをふいにすること多し。しかし、やはりと言うべきか、あの男が決定的な仕事をしてくれる。ムンタリがゴチャゴチャした状況下で左サイドを抜け出し、なぜかゴール前に詰めていたCBシャモジに丁寧にパスを送ると、シャモジが倒れこみながらゴールマウスにボールを入れてくれる。山東先制！前半の最後の方の貴重な得点となる。何となく優勢だが得点がない状況を不安視していただけに、山東勢みな安堵し、前半終了。

後半もこの調子でボールを支配し、追加したい。そんな思いでしたが、後半は城北が前がかり、山東のボールへのプレスが速くなり、より攻撃的になってきた印象。要するに城北、前に出てきた。そんな状況でも丁寧なパスワークから相手ゴールに襲いかかるほど山東の攻撃は洗練されておらず、後半は一進一退の展開。CBが釣り出されて攻め込まれたシーンや、GKサブローがペナルティエリアの外まで飛び出したもののボールをクリアできずロングシュートを打たれたシーンなど、冷や冷やものの後半。途中交代出場のワタコーさんのダイナミックな（ダイナミックすぎる）ワンツーからGKと1対1になったシーンや、これまた途中交代出場の1年タイセーの反転からのシュートなど、ゴール前での決定機は山東の方が多かったものの、追加点を奪えなかったために最後まで城北の攻撃に冷や冷やさせられっぱなし。CKの時などは、「この（山東優勢の）展開で追加点を奪えなかったんだから、同点になっても仕方ない」と盛んに齋藤GKコーチに語り、最悪の事態に心の準備をする。結局何とかしのぐことに成功し、1対0の勝利を得る。

前半の山東は主導権を握りに行く戦いができ、一定の評価を与えてもいいと思いました。逆に後半はバタついてしまいましたが、粘り強くは戦ったと思います。CBも期待の働きでしたが、何とんでもこの試合は1年カイトと2年サンペーのボランチコンビ？がSBとして攻守にわたり活躍したことが大きかった。特にサンペーは対人の強さや読みの良さを見せ、MVPと言っていい働き。3点くらい入れればタツルをFWに上げるなどの「プランB」²の予行演習ができたのですが、Y1でそんなことができる力は山東にないのだから高望みはできない。ともかくも6位争いに勝って勝ち点3を得ることができたのはとても貴重な収穫だし、60分プレーしたムンタリの復調ぶりも山東としては好材料でした。応援ありがとうございました。いよいよ別紙の通り県総体です。応援よろしくお願いたします。

5月31日県総体2回戦 新庄北VS鶴岡南の勝者との対戦@酒田光陵高校G 11:00~

² 正攻法の戦いでうまくいかなかった場合に繰り出す奥の手のこと。